

令和4年度 学校評価 自己評価書 ③

あま市立伊福小学校

1 総括

(1) 教育目標（学校経営案より）

知・徳・体の調和のとれた人間形成を図る。

【知】自ら学び、進んでやり通す児童

【徳】思いやりがあり、助け合う児童

【体】明るく、たくましい児童

(2) 本年度の重点努力目標

ア 確かな学力

- ・ ユニバーサルデザインの視点による学習規律の確立
- ・ タブレット端末活用による主体的・対話的で深い学びの工夫
- ・ しゅびータイムの充実

イ 豊かな心と健やかな体

- ・ 笑顔で元気のよいあいさつや返事の励行
- ・ 人権教育の工夫
- ・ 心を合わせた合唱の充実
- ・ 体幹を鍛える姿勢体幹体操の習慣化

ウ コミュニティ・スクールの充実

- ・ 地域人材の積極的な活用
- ・ ホームページ等を活用した取組内容の周知

エ 安全教育の充実

- ・ 見守り隊の充実と危機管理の徹底
- ・ 校内環境の整備
- ・ 自分の命を大切にする取組

オ 働き方改革とコンプライアンス遵守

- ・ 風通しのよい温かい職場環境作り
- ・ 業務内容の精選・改善や職務の優先順位の見直し
- ・ 生きがいや働きがいを大切にしたタイムマネジメント力向上
- ・ コンプライアンス面談や研修の推進

2 自己評価の実施体制

(1) 調査時期 令和4年12月20日（火）～令和5年1月11日（火）

(2) 調査項目 別紙アンケート参照

(3) 調査対象 有効回答者数／対象者数

児童 319名／327名

保護者 220名／248名（インターネット141名） 教職員19名／21名

3 調査結果 別紙アンケート結果参照

4 考察【児童・保護者・教職員の総括的考察】

(1) 児童の評価

- ・ 全体的には、ほとんどの項目で「よくあてはまる」「ややあてはまる」が80%以上で、肯定的な回答を得ることができた。
- ・ 「校外での活動に喜んで参加している」「先生たちは一生懸命に授業をしている」「タブレットを使った学習は自分のためになっている」の「よくあてはまる」という肯定的な意見が多く、校外での活動や普段の授業、ICTを使った学習に満足していると考えられる。
- ・ 「きちんと挨拶や返事ができる」「楽しく授業を受けている」について、約80%が肯定的な回

答であるが、「よくあてはまる」に着目すると、50%をやや下回り、改善の余地がある。

(2) 教職員の評価

- ・ 全体的には、肯定的な回答が多かった。
- ・ 「児童は校外での学習に喜んで参加している」「児童は歌うことが好きで楽しく合唱している」の項目が特に高く、感染症予防対策を取りながら実施した校外での学習（社会見学、林間学校、修学旅行等）と、3年ぶりの歌声集会で成果があったと考えられる。
- ・ 児童の評価と差が見られた項目は、「交通マナーを守っている」項目である。「よく守っている」と回答した児童は約70%である。しかし、「よく守っている」と回答した教職員は約10%である。継続して交通安全指導をしていく必要があると考えている。また、「挨拶、返事ができる」項目でも、児童と教職員の差が見られ、児童が校内だけでなく、家庭や地域でも今まで以上に挨拶ができるよう啓発していく必要性があると考えている。

(3) 保護者の評価

- ・ 全体的には、肯定的な回答が多かった。
- ・ 「児童は校外での学習に喜んで参加している」「学級で楽しく過ごし、仲のよい友達がいる」の項目で、肯定的な回答が最も多かった。校外での学習（社会見学、林間学校、修学旅行等）や学級での生活に児童が満足していると感じている。
- ・ 「挨拶、返事ができる」「ICTを使った学習」「TT指導」については、肯定的ではあるものの「よくあてはまる」に着目すると、30%をやや下回り、改善の余地がある。

5 成果と課題

《成果》

- (1) 児童、教職員、保護者の三者とも評価が高かったのは、「校外での学習（社会見学、林間学校、修学旅行等）」「児童が学級で楽しく過ごせている」の項目であった。
- (2) 「学校は情熱をもって教育に取り組んでいる」「ICTは学習に役に立つ」の項目で児童、教職員の評価が高かった。
- (3) 児童は、校内の安全が保たれていると感じている。
- (4) 学校行事、普段の授業、学校生活において教職員が児童の成長を感じている。また、しゅっぱータイムは、児童、教職員ともにコミュニケーション力向上に役立っていると感じている。
- (5) 児童は、相談があるとき、教職員が丁寧に対応していると感じている。

《課題》

- (1) 他の項目と比較すると、児童、保護者の姿勢体幹体操に関する評価が低い。アンケート調査が、委員会のキャンペーンの取組前であったことも影響があると考えられる。
- (2) 挨拶、返事に関しては、児童の自己評価に対して、保護者と教職員の評価が低く、差が見られた。
- (3) 授業がとても楽しいと回答する児童は、50%を下回る。

6 改善策

- (1) 令和5年1月に保健委員会による姿勢体幹体操のキャンペーンに児童が楽しんで取り組んだ実績を踏まえ、HP等で保護者に周知するとともに活動を定着化していく。
- (2) 校内での挨拶の習慣が定着しつつある。朝礼での校長の話、児童会、委員会を中心とした取組の効果もあり、登校時に通学団団長、副団長を中心に元気に挨拶をしている。今後は、家庭や地域の方へも積極的に挨拶やお礼などの言葉がけをするよう指導していきたい。さらに児童が地域でも挨拶できるように働きかける。
- (3) 主体的・対話的で深い学びの授業力を磨き、実践するとともに、授業がとても楽しいと感じる児童が増えるように工夫していきたい。
- (4) 学校内での取組で成果を上げているICT、教員と児童とのコミュニケーションなどを保護者にも伝えるように、HPを活用して周知していきたい。